

神が選ばれたマリア

(ルカ1・26～38)

一、召しを受けたマリア

26節をご覧ください。へきて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。とあります。御使いがマリアのところに来たのは、ピンポイントで目標を定められた、神の特別な働きです。それは、人を罪から救う神の御計画が実現するために、おとめマリアが聖霊によって身ごもるためです。

27節をご覧ください。この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。とあります。ここに、マリアでなければならなかった理由が記されています。キリストはダビデの子孫である必要がありました。

マリアはヨセフの婚約者でしたから——当時の婚約は、今日の結婚に相当します——、男の子を産めば、その子はヨセフの子ではありませんが、戸籍においてはヨセフの息子、ダビデの子孫になるわけです。ですが当然のこと、マリアはかなり戸惑いました。御使いは語りました。30節、31節です。へすると、御使いは彼女に言った。「恐れるこ

とはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。と。するとマリアは、決断しました。38節です。へマリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。とあります。

この時、マリアの年齢は、十代前半であつたと考えられています。

二、マリアの人となり

マリアは、どのような人だったのでしょうか。聖書を探ってまいりましょう。まず家柄は、神殿に仕える祭司の家系でした(ルカ1・36、1・5より)。次にマリアは、聖書に精通していました。1章46節から55節まで、マリアが歌い上げた歌が記されていますが、すべて聖書からの引用です。聖書の知識がなければできません。

次にマリアは、清く、強い意志の持ち主でした。婚約中のマリアがヨセフとの結婚生活に入る前に、主の召しを受け入れて神の子を宿します。離縁されるかも知れませんが、たしかにヨセフは、離縁しようとしませんでした。そういうリスクがあることは、十代のマリアにも十分に予測できたと思われれます。であるのに、主の御意思を受け入れました。

次にマリアは、多くを語る人ではありませんでした。主イエスが生まれられた晩のことです。御使いから救い主の誕生を知らされた羊飼いたちが、ベツレヘムまでやって来て、幼子の誕生を目にし、御使いが語ったことを話しました。へルカ2・19しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。と記されています。

次にマリアは、かなり苦労されたと思われれます。夫のヨセフは、若くして亡くなってしまったようです。地元の人々は、イエスを指して、「この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか」(マルコ6・3)と言いました。普通なら、ヨセフが死んでも、「この人はヨセフの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか」と言いますが、そうではありませんでした。マリアの家庭は、かなりいじめられていた可能性があります。一方マリアは、ごく普通の女性であり、母親でもありました(↓マルコ3・21を参照)。あれだけの経歴をしたにもかかわらず、主イエスの神性について疑うこともあつたようです。そういうわけで、マリアはすばらしい女性でしたが、人間離れをした崇高さを持っていたとか、特別なカリスマ性を備えていたとか、そういう人ではなかつたと知ります。

三、神の選びをたいせつに

聖書はマリアを、普通の人間として描いているように思われます。すなわち、特別扱いしていません。これはたいせつです。神を信じる者は、人を偏り見ません。なぜなら、神と人とのちがいを捉えているからです。神が崇高なるお方であると知りますと、人間同士の能力のちがいが、運不運のちがいが気にならなくなります。人間は一人ひとり、姿も異なれば、能力も異なります。歩む道も異なれば、すべてが異なります。ですが、おひとりなる神が私共を神の子にしようと選んでおられることはたしかです。神の選びは、誰かを選び、誰かを選ばないという選びではありません。イエス・キリストにあつて、すべての人を救いに選んでおられます。エペソ人への手紙1章3節、4節が語っています。へ私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあつて、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあつて私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。と。皆さま、イエス・キリストにある神の選びを受け止めてください。その後は、主にあつて自分が願うことをなさってください。そうするなら、その行いによって祝福されます。